

「園内研修」について

令和3年度は新型コロナウイルス感染の影響から、本協会の研修のほとんどがオンラインでの実施になったり、中止を余儀なくされたりしました。コロナの感染状況は落ち着きを見せつつありますが、なお油断できない状況が続いています。しかし、研修は私たち保育者にとって、今保育に求められている課題を解決していく上で欠かすことのできないものです。ぜひ研修の火を消すことが無いよう、各園でも取り組みを工夫していきましょう。

さて、本年度の春季公開講座では、玉川大学教育学部教授 大豆生田啓友先生にお願いし、「保育の質を高める ～保育の可視化とその活用を通して～」という演題でご講演いただきました。大豆生田先生のご著書に「語り合い」で保育が変わる」があります。お読みいただいた先生も多いかと思えます。著書には、保育を質の向上させる研修について、とても分かりやすくまとめられています。以下には先生のご著書で触れられている園内研修に係る内容をまとめてみました。今後の園内研修の参考にしていただけたらと思います。



＜研修の質を変える＞

- ・指導、伝達型研修⇒課題設定型研修⇒語り合いによる研修と保育の質を変えたい
- ・園内研修で大切にしたいのは、保育者が『保育って楽しい!』と思えること。そのためには、日々の保育の振り返りが重要
- ・日常の保育活動の上に園内研修をプラスすることは、物理的（時間の確保）に困難な面がある。研修と大上段に構えるのではなく、毎日ちょっとした時間に同僚と子どもの姿を語り合う研修が重要
- ・研修が、単なる知識や技能の習得で終わるのではなく、明日の保育に具体的につながり、生かすことが大切⇒園内研修を、自己の保育をデザインする場にしたい。そのためには、研修を継続的に実施していきたい

＜外部研修を生かす＞

- ・外部研修に参加する場合、次のような視点を大切に研修を選びたい

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| ① 保育に生かせる研修 | ② 自分が行きたい（興味のある研修） |
| ③ 子ども理解を深められる研修 | ④ こども主体の遊びを豊かにするための研修 |

- ・外部研修を生かし、往還的な研修にしたい
例)

オンライン研修を園内で一緒に受講する

研修で学んだことを共有し、実践する

園内研修で実践報告し、学び合い

＜園内研修を語り合う場に＞

- ・「語り合う」というのは、保育者の多様な見方や考え方を出し合うこと。
- ・そのため、以下のルールに従った保育カンファレンスにしたい

- | | | |
|-----------------------------|----------|--------------------|
| ・「正解」を求めようとしない | ・本音で語り合う | ・相手を批判したり、論争したりしない |
| ・「教える人」と「教えられる人」という関係を乗り越える | | |

- 研修をより良い「語り合い」の場にするためには、語り合える雰囲気づくり（開かれた環境）、同僚性を大切に考える気風、ファシリテーターの存在が大切
- 語り合いは、「子どもを多面的にとらえる」「同僚性の高まり（保育者同士が互いに支え合い、高め合っていく協動的な関係）に有効

<語り合う研修の例>

- この本には、園内研修のために特別に何かを用意するのではなく、日々の保育で取り組んでいるものを活用する方法が紹介されています。具体的には「日誌・ドキュメンテーション・連絡帳を題材とした語り合う研修」です。作成したドキュメンテーションを使って、子どもたちが、何を体験しているか「10の姿を」てがかりに振り返ってみる *ドキュメンテーション=保育を可視化したもの
以下にその手順を紹介します。

- ① 自分の作成したドキュメンテーションをグループ内で紹介する。
- ② 紹介されたドキュメンテーションの中から1つを選び、ドキュメンテーション上の子どもの写真や文章に、こどもたちが体験していると思う、「10の姿」の付箋をはる。
*このとき、同じ10の姿の付箋を全員で同時にはってみるとよい
- ③ はった理由や、見取った子どもの育ちについて語り合う
- ④ 子どものより豊かな経験のために、どのような援助や環境構成が必要か語り合う

*ドキュメンテーションを作成する際、ドキュメンテーションに「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」についてチェックできる部分（下図参照）を作り、記入を簡略化する工夫も紹介されていました。

幼児期の 終わりま でに育っ てほし い10 の姿	健康な 心とか らだ	自立 心	協 同 性	道徳性・規 範意識の芽 生え	思考 力の 芽生え	社会生 活との 関わり	自然との関 わり・生命 尊重	数量・図形・ 文字等への 関心・意欲	言語に よる伝 え合い	豊かな 感性と 表現
--	------------------	---------	-------------	----------------------	-----------------	-------------------	----------------------	--------------------------	-------------------	------------------

←上の10の姿の内、今回の園児の様子から読み取れた姿に○をして記録に残す

研修で大切にしたいことの中に、保育者が『保育って楽しい!』と思えることという言葉がありました。このことは、研修だけでなく、保育者が保育を子どもとともに楽しむことが大切であると思うのです。子ども主体の保育に転換すると、様々なことが子どもたちから出てきて、保育者にとってはどう子どもたちに対応して良いかわからないという不安もでてくると思います。しかし、どうならなくてはいけないという保育者自身の固定概念がそうさせている面が大きいのではないのでしょうか。そんな時こそ、子ども目線に立って考えたり（こんな準備をしたら、きっと子どもたちは○○の活動ができるんじゃないかなど…）、一緒に活動してみたりすることが大切ではないでしょうか。（専門員）

*出典 「語り合い」で保育が変わる 編著；大豆生田啓友
著；高嶋景子 三谷大紀